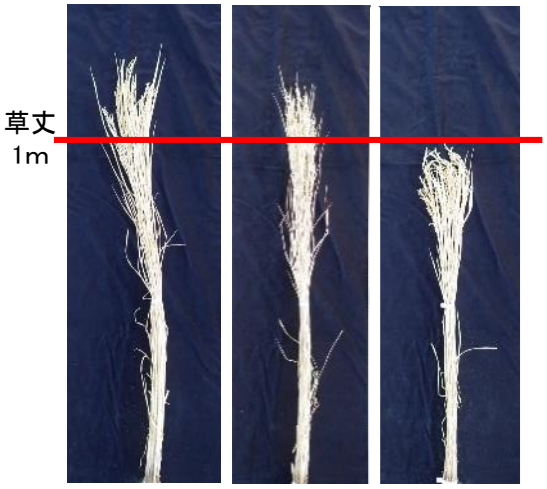
# 「祝」を栽培しやすく、多収にするために有望系統を選抜

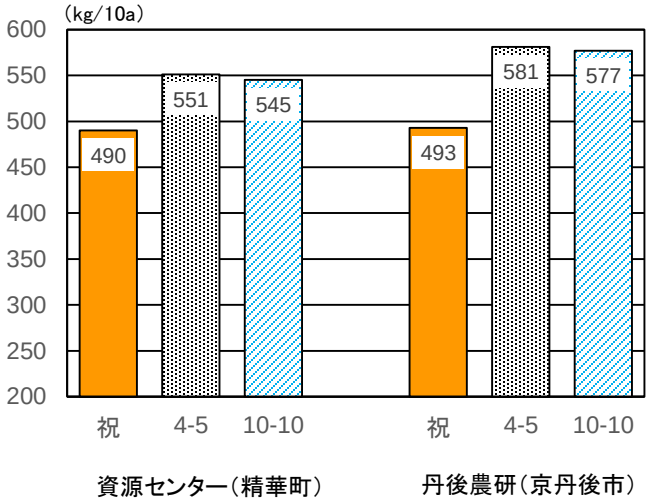
**酒造適性が優れた品種「祝」に、栽培適性の良い酒米を交配し、草丈が低く、栽培しやすい性質の系統を選抜しました。一方、試験醸造の結果、味や香りについては、これまでの「祝」とほぼ同等でした。**

| | |
|---|---|
| 背景 | ・**「祝」は草丈が高いため倒れやすく**、年により屑米が多く発生するため、**反収が予想より低くなることが多く、また年次変動が大きい**。<br>・酒造会社は**独自品種を使った醸造の要望が根強く**、その**安定供給が望まれている**。 |
| 課題等 | ・現在の「祝」より草丈を低く、かつ多収で安定するなどの**形質の改良が必要**。<br>・「祝」のブランドを継承するため、酒造適性などの**酒米品質については、少なくともこれまでと同等の性質を維持する必要**。 |




現在の祝　系統4－5　系統10-10

祝（左）と比べて、有望系統4-5はやや草丈低い
10-10は草丈が短く、倒伏性が大きく改善




令和元年及び2年の平均収量

祝と比べ、有望系統は10～17%多収

## 研究成果

・有望系統の草丈は短く、倒伏性も改善。また両系統ともに、**収量は祝より最大17%増加**。

・現行品種**「祝」と概ね同等の酒造適性**の有望１系統（10-10）と次点の１系統（4-5）を選抜。

・酒造メーカーによる試験醸造で**味や香りについて『祝』と同等との評価**を得た

■現状（R元年度）
- 収量　328kg/10a
- 単価　1.8万円/60kg
- 面積　94ha

■技術導入後
- 1系統を品種登録。
- 収量性410kg/10a（基準収量と比較して10～17%向上、農家粗収入1.47万円/10a向上）
- 心白小型化により精米時の割れ粒減少。歩留まりも向上。
- 「祝」と同等の酒造適性

## 今後の展開

・有望系統の栽培・収量特性を調査すると共に、伏見酒造組合等の協力を得て、営利規模の醸造における酒造適性を確認しながら**品種登録出願を行います**。

・日本酒の輸出拡大とＰＯＳＴコロナを見据え、**原料供給体制の確立**を進めるとともに、**令和６年度の当品種への全面切り替え**を目指します。